

法華コモンズ通信

法華コモンズ佛教学林事務局

192-0051 東京都八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 番号 ⇒ 042-627-7227

ブログ <http://hokke-commons.jp> / メールアドレス hokkecommons@gmail.com

創刊にあたって

法華コモンズ佛教学林 学林長 布施 義高

法華コモンズ佛教学林は、「日蓮門下の次代の担い手」、そして、法華信仰に生きる全ての人のために創設された「開かれた学びの場」です。

当学林の前身である東洋大学教授・西山茂先生（現・同大学名誉教授）が主宰された本化ネットワーク研究会（澁澤光紀事務局長）は、「日蓮仏教の再歴史化（蘇生）」を目標に各分野の専門家を順次講師にお招きし、極めて高いレベルで教理面、実践面の探求を志した研究会でした。同研究会は、その理念の継承を法華コモンズに託し、平成二十七年、十一年間の活動に幕を下ろしました。

また、同研究会の活動が愈々最盛期を迎えていた頃、全日蓮聖人門下規模で諸研究者を執筆陣として平成の日蓮聖人研究の集大成を図るプロジェクトが春秋社を舞台に始動し、平成二十五年に『シリーズ日蓮』全五巻の刊行が成りました。この日蓮教団史上における画期的出版の編集・刊行に、法華仏教研究会（花野充道主宰）、福神研究所（上杉清文所長）共々、大きく貢献したグループの一つが本化ネットワーク研究会だったのです。

法華コモンズ佛教学林は、この流れを汲む形で、初代理事長に西山茂先生、副理事長に佐古弘文先生（平成二十八年十一月十日御遷化）、事務局長に澁澤光紀先生が就任され、平成二十八年四月に船出しました。御陰様で、本学林は、平成二十八年四月以来、以下の講座を開講させて頂きました（講師敬称略。☆は現在開講中）。

【集中講座】現代における仏教倫理の可能性（末木文美士）／日蓮聖人とその時代（佐藤弘夫）／近代仏教研究の最前線！（大谷栄一、近藤俊太郎、碧海寿広）／鎌倉仏教と『五輪九字明秘密釈』（廣澤隆之、末木文美士、鎌田東二、花野充道）／日隆教学の形成と特色（大平宏龍）

【法華仏教講座】関戸堯海、三浦和浩、三輪是法、松森秀幸、花野充道、坂井法暉

【通常講座】インドの『法華経』を読む（荻谷定彦）／日蓮教学史と諸問題（布施義高）／日蓮教学と中古天台教学の検討（花野充道）／『法華玄義』講義（菅野博史）／日蓮聖人教学の基礎（庵谷行亨）／日蓮聖人遺文研究（都守基一）／初期仏教研究―仏滅年代論・經典の成立―（池上要靖）／インドの『法華経』―ホントの『法華経』を求めて（荻谷定彦）／日蓮聖人のご真蹟を拝す（山上弘道）／『吾妻鏡』と鎌倉仏教（菊地大樹）／日蓮聖人の宗教的自覚をめぐる諸問題（間宮啓壬）／☆歴史から考える日本仏教―鎌倉時代を射程に入れて（菊地大



樹)／☆『法華經』『法華文句』講義(菅野博史)／☆『法華經』の仏教思想を読む(松本史朗)

一般聴講者のみならず、専門家の関心さえを集める画期的な講座の数々が開講されてきました。本来であれば、是等全ての講座を毎年繰り返し開設し、より多くの聴講者に講師の生の声をお届けしたいところですが、残念ながら、現在、当方の自転車操業的な財政事情などにより、その理想は実現されていません。斯界の現況に鑑みた画期性を持つ講座を半年(月一回)開催、あるいは半日乃至一日集中講座という単位で随時開設し、都度できるだけ多くの聴講者を募るスタイルで学林を運営しております。

そうした中、この春、庵谷行亨先生の講座を叢書第一巻として電子書籍版で上梓することができました。今後も需要に応え、優れた講座記録を積極的に出版したい意向であり、スタッフ一同、より理想的な学林運営体制の確立を目指し鋭意努力しています。

そして、本年度からは賛助会員を広く募って皆様のご協力を仰がせて頂いております。

法華コモンズ佛教学林では引き続き順次、日蓮門下各方面また仏教界の巨匠に御登壇頂き、受講者や叢書読者に最良の勉学の糧を供していきたいと念願しております。

皆様に当学林への今後より一層のご理解ご支援をお願い申し上げ、蕪辞ながらコモンズ通信創刊の辞とさせていただきます。

開催講座の現況

松本史郎先生講座

『法華經』の仏教思想を読む

報告 武川清明

『法華經』は複数の教団において重要經典として扱われますが、文献学的に読解しようとするとき非常に厄介な經典でもあります。

漢訳では鳩摩羅什訳『妙法蓮華經』の他、竺法護訳『正法華經』、闍那崛多・達摩笈多訳『添品妙法蓮華經』が現存し、梵本も近代に校訂されたものを含め複数存在します。

松本先生はこれらの『法華經』を精読されたうえで、出現する単語や文章の精査により、『法華經』内の新古層と執筆者の意図を炙り出し、後代における付与とその目的が「仏乗から大乘への思想的立場の変更」、または「一乘真実説から三乘真実説への変更」「ヒンドゥー教的・非主知的立場からの『仏智』の神秘化」「当時の一般民衆(ヒンドゥー教的価値観)に向けた仏陀の人格の熱烈的讃仰の追加」であるとして、それらの考察を示して頂く講義となります。

第1回『法華經』の段階的成立と「方便品」の意義」では、「方便品」散文部分では「一乘」仏乗を説いているが、「譬喻品」では「方便品」散文部分で用いらなかった「菩薩」や「大乘」といった単語



が現れ、「声聞である舍利弗が実は過去世で菩薩行を行じた菩薩であるために授記がされる」という理解を付与し、一切衆生が成仏できうる「仏乗」から菩薩のみが成仏できる「大乘」への思想的変更を行う目的があると思われる」と解説して頂きました。

また、「方便品」の韻文部分も、散文部分にはない「菩薩」「大乘」の他、「小乘」やその他の差別的な単語が用いられ、また「方便品」散文部分の記述・意図から合致しない内容であるため、後の成立と思われるといった概要を示して頂きました。

第2回「方便品」の読解「一乗」と「仏乗」の意味」では、「方便品」において仏陀がシャーリプトラに説いた「仏智」の記述がパーリ仏典を下敷きとしていること、声聞にとって「難見」「難悟」の理由が、

過去世から連綿と修行を続けていた仏陀と、修行期間が最長でも「四十余年」となる声聞を比較して、修行・聞法の期間の長短にもとづいた結果であるという合理的な考え方が見られると解説して頂きました。また、「方便品」散文部分においては無上正覚を得るものと「なるであろう」と説かれ、無上正覚を得て成仏するのは即時ではなく、未来の時点であると考えられると示して頂きました。

第3回「譬喩品」の読解「大乘」と「菩薩」の意味では、インド仏教史上の歴史的順序、つまりまず声聞の教えがあり、次に菩薩の教えが大乘として説かれ、声聞の教えが小乗として貶められた後に「一乗」「仏乗」を説く『法華経』が成立したという、三段階の時間的順序は「譬喩品」散文部分の作者にはなく、「法華経」出現以前（小乗）と、「法華経」出現以後（大乘）に、時間と説法を二分化することで、「二乗」「大乘」とすることを意図したと考えられると解説して頂きました。また「譬喩品」では他にも「菩薩たちだけを教化する」といった、「無上正覚に向けて、菩薩だけを教化し、声聞は教化しない」という「大乘主義」が明確に示されていると述べられました。

『法華経』に新古層があることを想定して読むということは、これまでとは違った解釈・理解を目前に突き付けられるということでもあり、松本先生の講義は聴講生一同にとって非常にスリリングなものでもあります。

丹念な研究成果の一部を開陳して下さった松本先生に感謝申し上げますと共に、これからの講義にも期待せざるを得ません。残り回数も少なくなりましたので、皆様のご聴講もお待ちしております。

菊地大樹先生講座

「歴史から考える日本仏教①」

―鎌倉時代を射程に入れて―

報告 山名隆年

毎月第三火曜日午後六時三〇分より行われている菊地先生の講義では、飛鳥時代の五三八年頃に朝鮮半島から入ってきたとされる仏教が、日本国内にあった山岳信仰に、どの様に浸透していき、その後に奈良↓平安↓鎌倉時代へと移りゆく中で、その時代背景や、時系列ごとに特に関係のあった人物が、国家体制とどの様な関わり方をしていたのかなど、その裏付けとなる当時の膨大な文献資料を参考に歴史を紐解いていく作業を、学ばせて頂いております。

菊地先生による前回の講座「鎌倉仏教と吾妻鏡」では、道元、法然、日蓮といった鎌倉仏教の中心的人物が、それぞれの宗教的信念に従い、国家権力と相対するなか、その狭間では様々なやり取りがあったことを御講義いただきました。その講義の中でよく文献自体の性格を見ていくと、例えば鎌倉時代の記録文献の代表格とされている「吾妻鏡」では、欠落している出来事の記述が幾つか見られます。

た。特に日蓮聖人が安国論を上奏した際の北条幕府の対応等の記録が、何もなかったのかの様に記述自体が見当たらないという事を考えると、国家（鎌倉幕府）にとって都合の悪い部分の記録は残さないと、このような方針があったことも推測されます。

こうした時代の記録文献を参考にする場合、その文献のみを採用して、文書全体の記述を判断をするのではなく、例えば鎌倉方面とは反対に、朝廷の置かれていた京都方面の当時の文献なども参考に視野に入れ、時系列ごとに比較対照をしながら歴史をみていかなくは、実際の出来事とは随分掛け離れた見方になりかねない為、過去から現在、そして未来へと、歴史がどの様に変化していったのかを見るに



は、歴史の始まりという導入部分を、確りと抑えた上で検討を加えていく必要があるということを、学ばせて頂いております。

今回の講義では、鎌倉仏教より更に遡り日本宗教の歴史の導入部分を一度おさらいしています。日本の宗教の始まりとなる山岳信仰などでは、修行のみを行う行者自身が、やがて国家の政策に取り入れられていき、管理と統制といった制限を受けるようになる歴史が講義されました。仏教と人々が、どういった経緯を経て関わっていったのかを知る上で、仏教の伝来と、律令制などの中国文化を日本国家が取り入れながら、それを政治に反映させ、新しい「国家としての宗教」を構築していったのか、またその反対に、「大衆や民族からみた宗教と政治」といった二つの観点から見ていく事も前提にしながら、日本国内の宗教が古代から中世、そして中世から近代へと移り変わっていく過程を窺うなかで、実際にあった出来事がどういった経緯で展開され、更に変化していったのかということ、詳しく学んでいける画期的な講座となっています。

当法華コモンズの顧問であります、西山茂先生はじめ、また当学林長でもあります、布施義高先生は、当会発足時から『門流の垣根を越えての議論』を常々提唱されていますが、法華コモンズ佛教学林が、これからの日蓮門下の将来に、「大きな風穴を開ける!」そんなきっかけになれば!と思う今日です。

私も、「法華コモンズ佛教学林」をご縁に、スタッフの一員として、皆様のお手伝いさせて頂いて戴けたら幸いに思います。今後とも、皆様におかれましては引続きの御聴講を宜しくお願いいたします。

菅野博史先生講座

『法華経』『法華文句』講義

報告 稲田隆広

法華コモンズ佛教学林では、平成二十八年四月二十五日から平成三十年三月二十六日までの二年間にわたって、菅野博史先生による『法華玄義』講義（全二十四講）を開催いたしました。中国仏教思想史ならびに天台教学研究において、その第一人者として名だたる菅野先生の『法華玄義』講義ということで、日蓮門下各門流からの受講者はもとより日蓮門下以外からも多くの方が受講されました。

この『法華玄義』講義を受講された方から、「今回の『法華玄義』の講義が終了したら、ぜひ次は菅野先生に『法華文句』の講義をしてもらいたい」という要望を多数いただきました。そして、この要望に応えるかたちで平成三十年四月から、菅野先生による『法華経』『法華文句』講義を開講する運びとなりました。

本講義は、テキストである『法華文句』一〇二（第三文明社）の本文を繙きながら、天台大師の『法華経』解釈を解説していきます。また「注釈書読みの

經典知らず」にならないように、『法華経』（プリントにて配布）もあわせて読んでいきます。おそらく昨今において、『法華文句』の全文を地道に読み進めながら、精緻に学ぶことができる機会は非常に少ないと思われますので、日蓮教学および天台教学を修学している方にとってはまさに垂涎の講義だと思います。

第一回目（四月二十三日）の講義では、『法華文句』ガイダンス」と題し、『法華経』ならびに『法華文句』についての概略解説が行われました。初めに、『法華経』の中国語訳について、塩田義遜氏の考証を紹介しつつ現存する『法華経』の解説を行い、次いで中国における『法華経』の注釈書について、竺道生の『妙法蓮華経疏』や光宅寺法雲の『法華義記』、



吉蔵の『法華玄論』『法華義疏』『法華遊意』などを詳解されました。最後に『法華文句』について、佐藤哲英氏と平井俊榮氏の研究をふまえた『法華文句』の成立を解説されました。また、『法華経』の分科（一経三段・二経六段）について、四種釈（因縁釈・約教釈・本迹釈・観心釈）についての講義が行われました。

第二回目（五月二十八日）からは、実際にテキストを読み進めながらの講義が行われました。「序」と「品」の意義や、『法華経』全体の分科について、廬山龍師や中興寺僧印、そして光宅寺法雲などの先師の説について解説、最後に天台大師の説である一経三段と二経六段について講義されました。

第三回目（六月十八日）は、テキストの十二頁から二十頁までを読み進めました。ここでは、主に四種釈（因縁釈・約教釈・本迹釈・観心釈）についての講義が行われました。また、中国における機根および感応思想についての解説や、「本迹」ならびに「方便」の意義について、菅野先生ならではの詳しい解説が随所に行われました。

また、『法華経』『法華文句』講義が開講される日の、十五時から同会場において、「福神研究所」主催による、菅野先生の『摩訶止観』講義も開催されています。こちらも『摩訶止観』の本文を読み進めていく講義となっております。現在は「二十五方便」を読み進めているところです。受講料は一回二千円となっておりますので、こちらもあわせてご参加ください。

《半日集中講座》

大平宏龍 先生

「日隆教学の形成と特色」

報告 布施義高

平成三〇年六月一日（土）、新宿・常圓寺様祖師堂において、大平宏龍先生による半日集中講座「慶林日隆教学の形成と特色」が執り行われた。

慶林坊日隆（一三八五―一四六四）は、「本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経」の教学を打ち立て、室町時代を代表する勝劣派の学匠として知悉される。その教学は八品門流教学の礎となっただけでなく、様々な形で他門流の教学にも甚大な影響を与え、日蓮教学史上もつと脚光を浴びる大学匠の一人である。

その日隆教学の専門家として広く知られる興隆学林専門学校学林長・大平先生から、最先端の研究成果を直接ご教授頂ける得難い機会とあつて、当日の聴講者は、日隆門流関係者をはじめ、一線で活躍する法華教学・日蓮教学研究者から一般聴講者まで含めて、実に六〇名近くに及んだ。

講義開始直前に、西山茂理事長より挨拶があり、大平先生が西山理事長に歩み寄って握手を交わされ、大きな拍手に包まれて講義はスタートした。

講義は、前半二時間、途中休憩を三〇分程挟んで後半二時間と計四時間に亘り、極めてハイレベルで密度の濃い半日集中講座となった。

内容的には、先ず日隆教学における『観心本尊抄』

の位置づけ、『観心本尊抄』全体の見方、その解釈の特色と変遷（法体二重説↓法体三重説）という視点から切り込まれ、教学確立期以降の『観心本尊抄』解釈の特色として、法体三重説に立った唯一題目による成仏義、結文の重視、上行付嘱の教義の重視、上行付嘱と本尊義、三益論中心の教義、三五実説の視点、本門流通の立場の重視など、貴重な所見の数々をご教示頂いた。

また、「日隆教学の諸相と特色」として、日蓮遺文を能眼能照、天台教籍を所眼所照とする立場を貫きながら、その膨大な著作（一八部二七四巻）、抄録・覚書が認められたこと、また、所持の法華経や著作の成立史的・主題別の分類など、先生の長年の研鑽成果を次々と明快に披露してくださった。

次いで、日隆教学の方法論については、『観心本尊抄』を頂点とし、就中、結文を重視しながら、日蓮遺文と原始天台の捉え方に外宜迹面と内鑑本密の二面を洞察し、原始天台と日本中古天台の相違性や日蓮遺文と日本中古天台の相違性についても細かな検討を加えたところに特徴を見出せること、また、日隆の教学方法論の由来を解説され、中でも、日蓮義を始覚義・相待妙偏重と批判する天台宗側に抗して打ち出されたところに日隆教学を読み解く鍵があると指摘されたのは大変興味深かった。

更に、今回、大平先生は、「日隆教学の諸問題と特色」として、当学林からのリクエストに応えてくださる形で、「本門八品正意論」「法体二重説と法体三重説」「四重興廢説」「教判と本迹」「教主釈尊と顕本論」の項目を立て、一々について多面的に概説して

くださった。そして、総括的に日隆教学の全体系や教観論上の構図、あるいは教学樹立上の根底にある末法下機の直視という観点について、貴重な知見を得ることができた。

講義を終えるにあたり、「宗学」の意義を「宗（むね）とすべき学」と語られ、聴講者全員に宗学する者の有り様について再確認を求められた。大平先生の説得力ある言葉に、思いを新たにしたい聴講者が多かったのではないだろうか。

総じて、聴講者から、敬虔・真摯な求道者としての大平先生のご姿勢、そして温厚篤実なお人柄に魅せられた旨の感想が多く、主催者側一同、素晴らしい半日集中講座を開設させて頂けたことを大変誇らしく思っている。ご繁忙の中、貴重なお時間を頂戴しました大平先生、誠に有難うございました。



賛助会員一覧

（敬称略）

個人会員 ※1口 一万円

6口	柴山 信行
6口	持田 貫信
6口	佐古 弘純
3口	竹内 敬雅
3口	村上 東俊
2口	鈴木 正厳
2口	間宮 啓壬
2口	菅野 博史
1口	藤本 坦孝
1口	澁澤 光紀
1口	菊地 大樹
1口	丁田 泰昌

法人会員 ※1口 五万円

1口	西山 英仁
1口	松本 史朗
1口	長谷川正浩
1口	中野 顕昭
1口	佛立研究所
1口	匿名希望
2口	善龍寺
2口	光厳寺
2口	公益財団法人東洋哲学研究所
2口	本國寺
2口	持法寺
1口	顕本法華宗 経胤寺
1口	摩耶寺
1口	天龍寺

【法華コモンズ仏教学林 平成 30 年度後期講座の一覧】

会 場：新宿常円寺「祖師堂地階ホール」新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎03 (3371) 1797

受講料：1 期分 12,000 円（半年間 6 回） ※ 1 回のみ聴講は 3,000 円

「歴史から考える日本仏教② 《顕密問題》を考える」講師 菊地 大樹 先生

- 第1講 「顕密」問題の基本形 10 月 16 日 ※ 毎月第 3 火曜日 18:30~
 第2講 平安時代における「顕密」関係の成立 11 月 20 日
 第3講 鎌倉時代と顕密仏教・顕密体制 12 月 18 日
 第4講 日蓮の真偽未決遺文と「顕密」 2019 年 1 月 15 日
 第5講 もうひとつの「鎌倉新仏教」—「禅」僧東福寺円爾・聖一派と「顕密」— 2 月 19 日
 第6講 日本史のなかの「顕密」—近世近代を視野にいれて— 3 月 19 日

法華仏教講座 —6人の講師による6回の特別講義—

- 第1講 「日蓮聖人と密教」 講師：川崎 弘志 先生
 【日 時】平成 30 年 10 月 20 日（土）午後 4 時～6 時
 第2講 「《蓮密》をめぐる諸考察」 講師：上杉 清文 先生
 【日 時】11 月 17 日（土）午後 4 時～6 時
 第3講 「日蓮聖人の本仏論は仏教に非ざる基体説か」講師：花野 充道 先生
 【日 時】12 月 15 日（土）午後 4 時～6 時
 第4講 「法華経の誕生をめぐる一梵語写本が示すこと」講師：石田 智宏 先生
 【日 時】1 月 19 日（土）午後 4 時～6 時
 第5講 「創価学会と公明党の歴史と課題」 講師：中野 毅 先生
 【日 時】2 月 16 日（土）午後 4 時～6 時
 第6講 「日陣の教義をめぐる」 講師：鈴木正厳 先生
 【日 時】3 月 16 日（土）午後 4 時～6 時

『法華経』『法華文句』講義 講師 菅野 博史 先生

※原則 第 4 月曜日（4 月、6 月、8 月、12 月は別）午後 6 時 30 分～8 時 30 分

- | | | |
|------------|------------|-------------------|
| 第5回 8月20日 | 第8回 11月26日 | 第10回 1月28日（2019年） |
| 第6回 9月24日 | 第9回 12月17日 | 第11回 2月25日 // |
| 第7回 10月29日 | | 第12回 3月25日 // |

特別集中講義 講師 渡邊 寶陽 先生

第一講 「日蓮聖人の地獄観」 / 第二講 「『観心本尊抄』鑽仰」

第一講「日蓮聖人の地獄観」 11 月 24 日（土） 午後 3 時～5 時

第二講「『観心本尊抄』鑽仰」12 月 8 日（土） 午後 3 時～5 時

受講料：各 1 回 3,000 円

《受講申込み》 メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com

FAX⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <http://hokke-commons.jp>

事務局より

《年間賛助会員加入のお願い》

法華コモンズ仏教学林は、日蓮門下の次代の担い手のための「開かれた学びの場」として、平成28年4月より活動を開始しました。本学林の前身として、「日蓮仏教の再歴史化（蘇生）」を理念として11年間にわたり活動を繰り広げた本化ネットワーク研究会と、日蓮門下全体から執筆陣をそろえて平成の日蓮研究の集大成を果たした『シリーズ日蓮』という2つの活動があります。その成果を受けて、広く仏教・法華経・日蓮聖人の思想とその実践を学ぶための開かれた共有地（コモンズ）として、本学林が設立されました。お陰さまで開講より今日まで、各方面から好評のお声を頂いております。

しかしながら、本学林の運営は受講料のみでの自転車操業で、スタッフは皆ボランティアで活動を維持しています。そのため今後も優れた講師による有意義な講座を開設し、貴重な講義録の書籍化などを続けるためには、安定した経済基盤をつくることが開講以来の課題でした。そこで、3年目となる今年度より「年間賛助会員（個人・団体）」を募って、ご支援をお願いすることとなりました。

つきましては、皆さま方にはぜひ本学林の意義をご理解いただき、下記の要領にて「年間賛助会員」にお申し込み頂き、本学林のご支援をお願いする次第です。

本学林が未来の日蓮門下全体のための一役を担える組織として永続できますよう、皆さまの御理解御支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、春の前期講座の時点で、すでにご賛助頂いた方のご芳名を感謝を込めて6頁に掲載させて頂きました。匿名の方もいらっしゃいます。誠に有難うございました。

【年間賛助会員 加入申込みについて】

○ 個人会員—年間10（1万円）

○ 法人・団体会員—年間10（5万円）

《お申込み年度の特典》として

- 1、個人会員で6口以上の方には、会員のみ使える年間フリーパス受講証を差し上げます
- 2、法人・団体会員では2口で、誰でも使える年間フリーパス受講証を差し上げます

※「年間フリーパス受講証」は、開設の全ての講座を一年間全て受講することができます。年間6つの連続講座を受講した場合、受講料は七万二千元（一講座一万二千元×6）です。で、大変お得です。

● 申込み頂ける方は、右の内容を書いて、表紙タイトルまた8頁下記載のメールアドレス、ファックス、ブログからお申し込み下さい。

★ 個人か法人か、また何口かを明記

★ 名前、年齢、住所、電話、ファックスまたメールアドレスを明記

以上、どうぞ宜しくお願いいたします。

《『法華コモンズ通信』について》

今年度より賛助会員また受講生の皆さまとの交流をはかる場として、『法華コモンズ通信』を8月と2月の年二回発行することとなりました。

この創刊号では、本年度の前期講座の報告を中心として、後期講座のお知らせや賛助会員さんのお願いなどで編集しました。今後は、受講生の皆さまの各講座への受講感想や、ご意見ご要望などを掲載して、交流の場としての役割を果たして行きたいと思っております。ぜひ積極的にメールやファックスにてご投稿ください。

また、申込み受付が始まった今年度の後期講座については、すでに詳しいパンフが来ています。受講いただいている講座の受付時や事務局申込みなどでパンフを入手してご参照のうえ、お早めに後期講座の受講申込みをお願いいたします。

どうぞ今後とも『法華コモンズ通信』を宜しくお願い申し上げます。（事務局）

『法華コモンズ通信』創刊号

○ 発行日— 平成三〇年八月一日

○ 編集発行— 法華コモンズ佛教学林

○ 発行所— 法華コモンズ佛教学林 事務局

一九二〇〇五一 東京都八王子市元本郷町一〇一九

Fax 〇四二六二七七一七